

佐太神社・鹿島町浦巡りツアーを終えて

酒井 董美ただよし

恵曇神社参りの一スナップ

10月23日(日)島根半島42浦巡り再発見研究会主催の標記の催しは、終日快晴に恵まれて事故もなく無事に終了した。参加人員は26名。有限会社いやタクシー・東出雲観光小型マイクロバス2台を貸し切った。一号車はJR出雲市駅発、乗車ガイドは会員の遠藤律子氏と貴谷麻衣氏。平田文化館、雲州平田駅を經由。二号車の乗車ガイドは会員の立石保男氏、JR松江駅南口発で、松江しんじ湖温泉駅経由でいずれも八時に出発した。筆者が乗ったのは二号車の方であった、二台のバスは佐太神社で合流したが、一号車乗車予定の木幡育夫事務局長は、風邪を移さぬためと、マイカーで追送する配慮をされたのには感謝と共に心が痛んだ。

さて、神社巡りの要所では、御津神社宮司・岸悟氏をガイドにお願いして行われた。回った神社名を順番に記しておく。

①佐香神社、②佐太神社、③矢取神社、④御津神社、⑤片匂八幡宮、⑥手結津上神社、⑦恵曇神社(河邊社)、⑧古浦天満宮、⑨恵曇神社(鹿島支所付近)。

昼食は御津神社参拝後、御津交流センター二階を会場に弁当で摂ったが、窓からは日本海が望める場所であった。

ここから筆者の感想を述べておこう、回った神社も普段なかなか出かけなかったところだけに、それぞれに珍しく新鮮だった、特に印象に残ったのは岸悟氏の解説のみごとさだった。氏の知見は広範に及び、深い上にユーモアがあった。これまでうかつにも知らなかったことで教えてもらえた点は、まず神社での拝礼の仕方の決まりであった。最初に二拝礼し二回拍手を行うことであり、後の一礼は単なる儀礼で必ずしななければならぬものではないということ、出雲大社だけは四拍手することになっている。続いて最も多い神社は稲荷社であり、次いで八幡宮があり、三番目に天神を祀った神社になる。ただ「天神さん」と言っても実際には二つに分かれ、菅原道真を祀ったものと、いわゆり天の神様を祀ったものとなる。本県宍道町菅原にある天満宮では、父・是喜これよしが大和朝廷から単身赴任で当地に滞在したおり、親しくなった当地の女性との間に生まれたが、大和帰任後、道真誕生を知り、呼び寄せて育てた結果、あのように立派になった。ただ、誕生地と称するところは多々あり、武蔵坊弁慶も同様である。ここまでは真面目な話であるが、話は古事記のイザナギ、イザナミの神に移り、亡き妻イザナミの汚れた姿を見たイザナギが妻から追われ、山から逃げて別れるときに「一日にあなたの国の人間を一日に千人殺します」と宣言された。そこから先が面白かった。岸氏いわく、「一番怖ろしい神はご存知ですか。それはこういいうわいで山の神です。こうして人を殺すのですから」……。参加者一同、一瞬、あつげにとられ、続いてにやりとしたものだった。

このようにしてツアーは満足のうちに終わったのである。(元島根大学法文学部教授)